

# 地域と大学

第19号

*Newsletter No.19, Center for Education and Research in Lifelong Learning*

## 地域連携に携わる喜び

地域連携協働センター（非常勤理事） 満井 義政

地域連携協働センターは今年度より学則上の組織として正式に設立した。予算と専任の事務員も付き、生涯学習教育研究センター他6のセンターの教員、地域連携推進コーディネーターと事務職員とともに活動している。私は大学部外の者として「地域連携」に当初から関心を持っていたこと、教育と研究に並び地域連携がこれからの大学を支える柱であることを知っていたので担当することは幸いであった。しかし、地域連携の領域の広さと影響力の深さには驚かされた。

創立60周年記念事業の一つとして実施されている、読売新聞社との連携講座の企画を実例にしてみると「地域連携」の本質が見えてくる。新聞社からの持ち込み企画ではあったが、テーマの設定や担当する教員の研究内容の把握に双方の思いが交錯し、予想以上の時間を掛けて検討した。受講者が講座の意図を理解できるか不安であった。いま10回講座の4回が終わったが受講者の満足度は高く、幅広い年代の参加者が予定の時間を超えて質問する姿と、真剣に答える教員の対応には感動さえ覚える。

当初企画の段階で新聞社と大学にはそれぞれの意図や目的があり、それはまったく同じものではなかった。しかし、現実の講座は、受講者に分かりやすい専門的研究の解説と知識の提供、それに疑問の解決がされる高度な教育であった。同時に新聞社は講座の詳細を適確に編集し掲載するのである。これは受講者にとって何よりの復習であり、新聞の読者には大学の教育・研究が関心事につながっていく。講座を重ねるたびに参加希望者は増え続けている。まさにこの企画が受講者（地域）のために成り立っている証である。「地域連携」は大学や連携する団体の思惑ではなく、そのサービス

を享受する地域（受講者）のためのものではなくてはならないと痛感する。教育と研究が学生のためにあるのと同じように。

地域連携協働センターは動き出したばかりである。多くの計画と課題を抱え同時進行で目の前の業務をこなしている。本誌前号（18号）で菅野文彦先生が紹介された各団体との講座の準備や、多様化する地域の要請に対応する業務は多忙である。嬉しい限りではあるが、残念ながら入ってくる情報と出さなくてはならない情報の整理がまだできていない。読売新聞の連携講座も本誌で初めて知った方もあるのではないか。地域情報や他大学の情報はもとより、教職員に限らず「地域連携」に取り組む学生の活動、同窓会の情報も大切だ。これらの情報管理と活用は不可欠である。しかしながら教員の研究内容や実績のデータすら未だ十分ではない。今年度には地域連携のホームページ制作と学内コーディネーター拡充を図っていく予定であり、情報の担い手として学生の参加も積極的に考えていきたい。その前提である教員の地域連携への理解と協力を切にお願いしたい。地方国立大学が厳しい環境にある中で、特色を出していくのは「地域連携」の実績が重要であると考えている一人として、地域連携に関わる意義を感じていただければ嬉しく思う。

現場で活かし現場から学び取る研究や、学ぶ意欲のある者と学ぶ喜びを共にできる地域連携の活動に関われることは私の喜びでもある。



## 2009年度静岡大学公開講座が開催中です

今年度の公開講座は、以下の表のとおり、5月から11月にかけて多彩な14講座をお送りしています。それぞれの専門分野を生かした、特色ある講座が開講されています。

東西に長い静岡県の地形を考慮し、静岡、浜松、沼津など、静岡県の県内各所で開講し、静岡キャンパス、浜松キャンパスをはじめ、静岡市産学交流センター

(B-nest) や沼津市民文化センターなどが会場となっています。また、一般の方を広く対象にした講座もあれば、子どもや親子、あるいは教員など、受講対象を絞った講座もあり、さまざまなニーズに応じて、多様な講座が用意されています。

すでに終了したものもありますが、実施結果については、次号の『地域と大学』でお知らせする予定です。

### ■公開講座の一覧

種別	講座名	講師	日時	対象	会場	定員	受講料	主催
教養を高める	世界の演劇文化の楽しみ方	人文学部教授 上利博規 人文学部教授 鈴木実佳 人文学部教授 岡崎真紀子 人文学部准教授 花方寿行	5月23日(土) 13:30~16:30	一般市民	静岡芸術劇場(グランシップ内)	30	600円	(人)
	対人援助サービスの質的向上を目指して～ヒューマンケアに支えられた共生社会のために～	人文学部教授 松田 純 法科大学院教授 藤本 亮 人文学部准教授 堂園俊彦 人文学部教授 南山浩二 人文学部准教授 荻野達史 人文学部准教授 竹ノ下弘久 人文学部准教授 橋本 剛 人文学部教授 平岡義和	6月23日・30日・7月7日・14日・21日・28日(火)[全6回] 18:30~20:30 (7/28のみ18:30~19:30)	看護師、介護福祉士、医師、理学療法士、医療や福祉に従事する方、障害者、ひきこもり児童、滞日外国人のサポートに携わっているNPO関係者、教員、行政関係者、家族の方など	静岡市産学交流センター(B-nest)	30	各回500円(第6回のみ400円)	(生)
	聞いてよかった! 日本語ゼミナール	人文学部教授 勝山幸人 人文学部教授 服部義弘 人文学部教授 城岡啓二 人文学部教授 熊谷滋子 人文学部准教授 大村光弘	9月12日(土) 9:30~17:00	一般市民、高校生、留学生、外国人	静岡市産学交流センター(B-nest)	40	2,000円	(人)
	高齢化社会における地域とまちづくり	教育学部准教授 中條暁仁 教育学部准教授 矢野敬一 人文学部教授 南山浩二	9月12日・19日・26日(土)[全3回] 14:00~16:00	一般市民	沼津市民文化センター	50	1,600円	(生)
	アジアの人々と暮らしは今	人文学部教授 大野 旭 人文学部教授 浅利一郎 人文学部教授 上利博規	9月26日・10月3日・10日(土)[全3回] 13:00~15:00	一般市民	静岡市産学交流センター(B-nest)	27	1,000円	(人)
	情報学アラカルト講座2009	情報学部教授 竹林洋一 情報学部准教授 竹内勇剛 情報学部教授 雨宮正彦 情報学部教授 高松良幸	11月14日(土) 10:30~12:00	一般市民及び本学の学生とその保護者	静岡大学浜松キャンパス	210	各講座500円	(情)
身体を動かそう	運動不足解消のためのエンジョイ大人卓球教室	教育学部教授 吉田和人 NPO法人卓球交流会 山田耕司	10月3日(土) 13:30~16:00、 10月4日(日) 9:00~12:30 [全2回]	一般市民	静岡大学静岡キャンパス	50	3,000円	(教)
	ノルディックウォーキング&エクササイズと里山自然体験	教育学部准教授 杉山康司 教育学部准教授 祝原 豊 名誉教授 中野偉夫 教育学部技術専門職員 重岡廣男	11月9日・16日・30日(月)[全3回] 9:30~11:30	メディカルチェック等で歩くことを制限されていない健康な方	静岡大学静岡キャンパス	20	5,500円	(教)

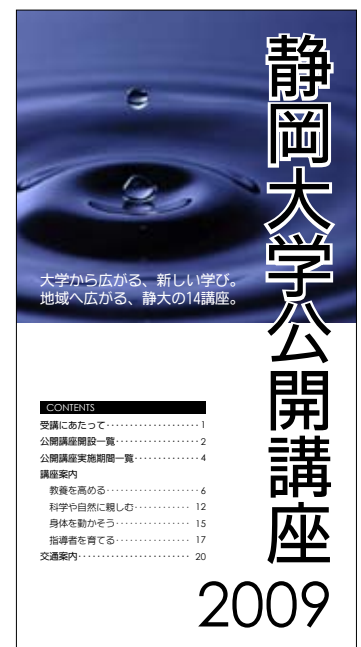
種別	講座名	講師	日時	対象	会場	定員	受講料	主催
科学・自然を楽しむ	体験!大学の化学実験	機器分析センター准教授 近藤 満 理学部助教 仁科直子	8月1日(土)、2日(日) [全2回] 10:00~16:00	原則として中学生以上(小学生は保護者の同伴が必要)	静岡大学静岡キャンパス	36	2,000円	(生)
	静大キャンパス探訪～キャンパス内の自然と歴史に触れよう～	人文学部教授 滝沢 誠 教育学部技術職員 新妻廣美 教育学部教授 小南陽亮	10月17日・24日・31日(土) [全3回] 10:00~12:00	一般市民	静岡大学静岡キャンパス	20	1,000円	(キ)
	バイオテクノロジー体験～生長点培養をしてみよう～	農学部准教授 河原林和一郎 農学部助教 浅井辰夫 農学部助教 八幡昌紀 農学部技術専門職員 増田幸直 農学部技術専門職員 西川浩二 農学部技術専門職員 成瀬博規	10月31日(土) 9:45~12:15	中学生以上	静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド	20	1,000円	(農)
指導者を育てる	小学校外国語活動スキルアップ講座	教育学部准教授 矢野 淳	8月21日(金) 10:00~16:00	静岡県内の小・中学校教員	静岡大学静岡キャンパス	25	500円	(実)
	問題を通して関係を深める	教育学部准教授 加藤弘通 教育学部附属教育実践総合センター教授 杉山 孝	8月26日(水) 13:30~16:30	学校教員、学校教育関係者	静岡市産学交流センター(B-nest)	30	1,000円	(実)
	日本語教育とその周辺	国際交流センター教授 原沢伊都夫 国際交流センター准教授 袴田麻里 国際交流センター非常勤講師 松葉優子 国際交流センター教授 熊井浩子 国際交流センター准教授 案野香子	10月10日・17日・24日・31日・11月7日(土) [全5回] 13:30~16:30	日本語教育関係者または日本語教育に興味のある社会人	静岡市産学交流センター(B-nest)	30	4,000円	(国)

[主催欄凡例]

- (生) = 生涯学習教育研究センター
- (人) = 人文学部
- (教) = 教育学部
- (農) = 農学部
- (情) = 情報学部
- (キ) = キャンパスミュージアム
- (実) = 教育学部附属教育実践総合センター
- (国) = 国際交流センター



ポスター



パンフレット(全24ページ)

## 2009年度生涯学習教育研究センターの主な事業

区分	事業名	概要	日程/会場
大学開放事業	市民開放授業	大学教育センターと共同で、学生対象の正規の授業科目を市民に積極的に開放する。2005年度から実施している授業の開放講座数を更に増やし、語学なども組み入れ、市民の受講について積極的に支援する。また、アンケート・懇談会などの機会を設け、受講市民の声を集め、大学開放事業に反映させる。	通年 静岡大学静岡キャンパス・浜松キャンパス
	公開講座	市民ニーズに対応し、大学の持つ資源を活かした公開講座を企画・実施。生涯学習教育研究センター運営委員会において企画・立案された静岡大学公開講座を本学キャンパスを中心に県内各地で一般市民向けに実施する。また各部局からの公開講座の企画・実施をサポートする。	2～3ページの表参照
地域との連携を深める調査研究事業	学習ネットワークと生涯学習⑫	自治体、NPO、研究者などをパネリストとして、生涯学習に資する学習ネットワークづくりに関する研究・実践事例を報告、検討する公開シンポジウムを開催する。	未定
	博物館フォーラム	博物館学芸員と研究者、市民、NPO、学生等が、施設活用や地域文化の向上のために何ができるか、どのような連携を可能かについて報告・検討を行うフォーラムを実施する。	未定
	生涯学習指導者研修事業	静岡県公民館連絡協議会との共催により、県内市町村公民館主事や生涯学習担者の研修事業を学生も参加して実施する。	2010年1月27日(水) 静岡市清水興津生涯学習交流館
創立60周年記念関連事業	静岡大学・読売新聞連続市民講座「人間と環境の現在と未来―21世紀の日本を拓く」	読売新聞社静岡支局と連携して市民講座を実施する。総合大学である静岡大学の特長を生かし、環境問題について学問分野を横断してさまざまな角度から取り上げる。 ①5/9「地球温暖化防止と私たちの未来～低炭素社会をつくるために～」講師：水谷洋一（静岡大学人文学部准教授） ②6/6「地球環境のマイクロ世界で何が起きているのか～地球温暖化と関係あるのか～」講師：鈴木 款（静岡大学創造科学技術大学院教授） ③7/4「環境思想の系譜～エコロジーはどういう考え方か～」講師：芳賀直哉（静岡大学大学教育センター教授） ④8/1「環境『リスク』としての地球温暖化～環境問題の社会的見方～」講師：平岡義和（静岡大学人文学部教授） ⑤9/5「植物の力が私たちを助ける」講師：本橋令子（静岡大学農学部准教授） ⑥10/3「富士山をとり巻く植物群落を知る ～1000mから3776mへ～」講師：増澤武弘（静岡大学理学部教授） ⑦11/7「農業は環境を破壊するか～アフリカ熱帯雨林の焼畑・混作農業～」講師：小松かおり（静岡大学人文学部准教授） ⑧12/5「社会と自然の関わりを知る～私たちの未来へ向けての環境教育～」講師：大塚謙一（静岡大学教育学部教授） ⑨1/9「生、死、自然～人と環境の関係をたずねて～」講師：竹之内裕文（静岡大学創造科学技術大学院准教授） ⑩2/6「21世紀の羅針盤を求めて」講師：松田 智（静岡大学工学部准教授） 「市民とともに進める環境保全～棚田再生の記録～」講師：中井弘和（静岡大学名誉教授）	2009年5月9日～2010年2月6日(土) [全10回] 静岡市産学交流センター (B-nest)
	静岡大学・中日新聞連携講座	中日新聞と連携し、静岡大学浜松キャンパス(工学部・情報学部)の取り組みの紹介を中心とした公開講座を開催する。 (各回内容未定)	2009年10月17日(土)、11月15日(日)、12月12日(土)、2010年1月9日(土)、2月13日(土) [全5回] 静岡大学浜松キャンパス
	静岡大学・コープしずおか創立60周年記念連携公開講座「食を考える」	静岡大学とコープしずおかがともに創立60周年を迎えることを記念し、日本の「食」の構造をさまざまな角度から考える連続講座を開催する。 ①7/4「日本農業の再生を考える」講師：中井弘和（静岡大学名誉教授） ②9/5「食の安全と安心を考える」講師：安井至（東京大学名誉教授・独立行政法人製品評価技術基盤機構理事長） (以降未定)	2009年7月4日～2010年2月 [全6回] 静岡市産学交流センター (B-nest) ほか
	静岡大学開学60周年記念公開シンポジウム「静岡大学の足跡と未来への足音」	創立50周年公開講座のテーマを受け、その後の10年の展開を総括する公開シンポジウムを2回開催する。 ①5/30「わたしが語るわたしの静岡大学」 ②10月頃「それはいかに実現されたのか？」	①ツインメッセ ②静岡市産学交流センター (B-nest)



## 2008年度下半期（10月～3月）の事業報告

### 主催事業

#### 公開セミナー

##### 「学んで楽しい！～大学で学ぼう～」

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができることを目的に、「学んで楽しい！」と題する公開セミナーを実施しました。知的障害のある人にとっても、学び続ける機会があることで、社会参加の幅が広がり、人生をより豊かにすることができます。大学のキャンパスを学びの場にしようという趣旨の企画です。

ボランティアの方々も含めたくさんの方々に参加いただきました。

■日時：2008年10月19日（日）9:00～12:10

■プログラム：

- ①「消費生活を考えてみよう」講師：色川卓男（静岡大学教育学部准教授・消費生活科学教室）
- ②「音楽のしくみを知ろう」講師：北山敦康（静岡大学教育学部教授・音楽教育教室）

■会場：静岡大学学生会館ホール

■参加者：静岡県の知的障害養護学校等卒業の社会人（18歳以上）、県立特別支援学校等の教員、青年学級等の関係者・保護者、静岡大学教育学部特別支援教育（障害児教育）専攻の学生、静岡県知的障害者就労研究会会員など

■参加費：無料

■参加者数：133人（うち学生43人、教職員その他43人）

■企画：静岡県知的障害者就労研究会



公開セミナー「学んで楽しい！」会場風景（消費生活を考えてみよう）

#### 公開シンポジウム

##### 「学習ネットワークと生涯学習①」

「学習ネットワークと生涯学習」をテーマに実施する公開シンポジウムも、今回で11回目を数えました。今回は、市民・行政・企業・NPO・他の自治体などのネットワークを駆使した地域づくり、情報学・ITを駆使した都市分析、情報ネットワークを活用した教育実践などを取り上げながら、生涯学習のための学習ネットワーク構築の可能性を検討しました。

なお、このシンポジウムの内容の詳細については、当センターが発行する研究紀要で別途報告する予定です。

■日時：2009年1月20日（火）14:20～15:55

■会場：静岡大学共通教育A棟201教室

■プログラム：

- ①「生涯学習のまちづくりとネットワーク」報告者：榛村純一（大日本報徳社社長、前掛川市長）
- ②「情報学・ITを駆使した都市分析」報告者：西原純（静岡大学情報学部教授）
- ③「ICTは遠隔教育をどう変えるか——学習と共同体づくりの観点から」報告者：村山 功（静岡大学教育学部教授）

■コーディネーター：菅野文彦（静岡大学教育学部教授）

■参加費：無料

■参加者数：60人



公開シンポジウム「学習ネットワークと生涯学習①」会場風景（質疑応答）

#### 博物館フォーラム「文化財保護の現在と未来——静岡県内の取り組みから」

これまで「大学と博物館を結ぶ」というテーマで行ってきた公開シンポジウムのスタイルを変えて実施しました。

今回は、文化財保護に焦点を当て、地域の身近な文化財をどのように守り、また地域文化の向上のためにどのように役立てていけばいいのか、静岡県内の事例

を通して、その意義と課題を考えました。

なお、このシンポジウムの内容の詳細については、当センターが発行する研究紀要で別途報告する予定です。

■日時：2009年  
3月14日（土）  
14:00～16:30

■会場：静岡県  
男女共同参画  
センターあざれあ第1研修室

■プログラム：

- ①「静岡県博物館協会における災害対策への取り組み」報告：飯田真（静岡県立美術館学芸課長）
- ②「静岡県の自治体史編纂事業の現状と課題」報告：本多隆成（放送大学静岡学習センター所長・静岡大学名誉教授）
- ③「文化財の災害ボランティア活動」報告：山口聡太郎（NPO文化財を守る会代表）

■コーディネーター：高松良幸（静岡大学情報学部教授）

■参加費：無料

■参加者数：22人

■後援：静岡県博物館協会、静岡県文化財保存協会、伊豆屋伝八文化振興財団

静岡大学地域連携センター  
文化財保護の  
現在と未来  
静岡県内の取り組みから

2009.3.14(土)  
14:00～16:30  
参加無料!

【講演】  
飯田真（静岡県立美術館学芸課長）  
山口聡太郎（NPO文化財を守る会代表）  
本多隆成（放送大学静岡学習センター所長・静岡大学名誉教授）

【コーディネーター】  
高松良幸（静岡大学情報学部教授）

【会場】  
静岡県男女共同参画センターあざれあ第1研修室  
〒420-8501 静岡市葵区東山町1-1-1

【お問い合わせ】  
静岡大学地域連携センター 事務局  
TEL: 054-243-4117 FAX: 054-243-4117  
E-mail: shizuoka@shizuoka.ac.jp

博物館フォーラムチラシ

### 共催事業

## 静岡大学創立60周年プレ企画・棚田交流記念 公開シンポジウム「いま、食と農を問う」

創立50周年記念静岡大学特別公開講座をきっかけとして静岡市内で始まった棚田再生プロジェクト「清沢塾」はその後も発展を続け、地域と大学との協働による貴重な地域づくり事例となっています。この清沢塾と、鹿児島島の竹子農塾、奄美のあぶし会という三者の棚田グループとの交流を行うことを目的に、静岡大学創立50周年から60周年に至る創立60周年プレ事業としての役割もあわせ持つ学外公開シンポジウムを開催しました。

各地で展開されてきた棚田再生の取り組みを事例として「食」と「農」の問題を考え、合わせて地域と大

学との連携・協働のあり方の具体的な可能性を考えました。

■日時：2008年11月8日（土）14:00～17:20

■会場：静岡商工会議所会館4階会議室

■プログラム：

- ①基調講演「食と農に吹く風」講師：萬田正治（鹿児島大学名誉教授・竹子農塾代表）
- ②棚田活動報告  
報告者：四本 翠（奄美・あぶし会）  
高山耕二（鹿児島・竹子農塾）  
近藤弥五郎（静岡・清沢塾）
- ③パネルディスカッション「いま、食と農を問う」  
パネリスト：四宮明彦（鹿児島大学教授）  
龍田純隆（ドラゴンファーム園主）  
萬田正治（竹子農塾代表）

■コーディネーター：中井弘和（静岡大学名誉教授）

■参加者数：90人

■参加費：無料

■主催：静岡大学地域連携協働センター、静岡大学生  
涯学習教育研究センター、清沢塾

■後援：静岡新聞、静岡放送



「いま、食と農を問う」会場風景（パネルディスカッション）

## 生涯学習指導者研修事業

### 「地域が支える、地域を支える公民館」

静岡県内の公民館活動などを通して、生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供と大学とのネットワークづくりを進めるとともに、指導者の資質の向上をはかることを目的に、静岡県公民館連絡協議会との連携事業として実施しました。

近年、公民館を取り巻く環境は大きく変わってきており、また、家庭教育支援、人材育成、地域づくりへの貢献など、地域社会のなかで期待される役割もその比重が変わりつつあります。社会教育・生涯学習の面から地域を支え、かつ住民の力を結集しながら公民館

活動を活性化させることが課題となっています。そこで今回は、「地域が支える、地域を支える公民館」をテーマに、各地の公民館の事例に学びながら、公民館と地域の連携のあり方などを検討しました。

■日時：2009年1月30日（金）10:30～16:00

■会場：清水興津生涯学習交流館

■プログラム：

- ①基調講演「地域の教育力を高める公民館活動」  
講師：小山忠弘（ふるさと再生塾塾長、前札幌国際大学学長）
  - ②事例報告  
報告者：八木利政（焼津市大村公民館長）  
伊藤和利（浜松市立県居公民館長）  
山下昌秀（浜松市白脇公民館長）  
石垣英夫（袋井市浅羽南公民館長）  
長谷川梓織（静岡大学教育学部4年）
  - ③パネルディスカッション  
パネリスト：事例報告者  
コメンテーター：渋谷かさね（静岡大学教育学部准教授）  
司会：阿部耕也（静岡大学生涯学習教育研究センター教授）
- 参加者数：55人  
■参加費：無料  
■主催：静岡県公民館連絡協議会、静岡大学生涯学習教育研究センター

## 企画協力事業

### 吉田町特別講座

#### 「地震のメカニズムと防災のまちづくり」

吉田町教育委員会主催で、当センターが企画協力した特別講座。6回にわたり、地震発生の仕組みや観測、予測からその対策、対応について考えました。

■日時：2008年10月29日・11月5日・12日・19日・26日・12月3日（水）[全6回] 19:00～21:00

■会場：吉田町中央公民館

■プログラム：

- ①10/29「地震発生のメカニズム」講師：里村幹夫（静岡大学防災総合センター所長）
- ②11/5「地震観測と発生予測」講師：藤井直之（静岡大学理学部客員教授）
- ③11/12「建築物の地震被害と耐震化」講師：安村基（静岡大学農学部教授）
- ④11/19「地震と斜面崩壊」講師：土屋 智（静岡大学農学部教授）
- ⑤11/26「災害時の医療」講師：池谷直樹（静岡大学保健管理センター所長）
- ⑥12/3「東海地震の歴史に学ぶ」講師：小山真人（静岡大学教育学部教授）

■参加費：3,000円

■主催：吉田町教育委員会

■企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター・地震防災センター・保健管理センター

## 2009年度静岡大学市民開放授業

### 市民開放授業の概要

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放し、正規学生と一緒に受講していただくもので、2005年度から実施しています。

2009年度の開講科目数の状況は下表のとおりです。

開講場所	前期	後期
静岡キャンパス	189	207
浜松キャンパス	23	29
合計	212	236

### 市民開放授業懇談会

市民開放授業の2009年度前期の受講生募集に先立ち、市民開放授業の「事前説明会」と、市民開放授業受講生による「懇談会」を開催しました。

「懇談会」は、市民開放授業制度導入後4年目を経過して、受講体験者が、このシステムをどのように評価し、今後の静岡大学に何を期待しているかを探るために、受講者の皆さんと直接、意見交換をする場を設けたものです。たくさんの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

■日時：2009年3月26日(木) 事前説明会：14:00～15:00 懇談会：15:00～16:00



■会場：静岡市産学交流センター（B-nest）演習室4

■参加者数：40人

■参加者からの意見・感想（要旨）

- ・ 駅前を出て出前授業などをやってほしい。駅前にはカルチャーセンターなどもあり、参加しやすい。
- ・ 図書館の利用方法について、2回利用したことがあるが、書庫の郷土資料は大変利用しにくい。読みたい本を申込書に記入し、カウンターに提出し、係の方が持ってきてくれる。自分の場合、遠州の市町村史を見たい場合、〇〇〇の〇巻とは、書きづらい。三島図書館、沼津図書館では、自由に自分で選んで読むことができる。
- ・ 授業料は、郵便局の振込みだけだが、簡易郵便局が閉鎖になり、バス代をかけて振込みにいかななくてはならない。大変不便である。今年から銀行から振込ができるようになったが、そのための新しい番号もない。試聴期間中は、大学の窓口で現金で支払えるとか、生協でバーコードを処理して振込みできるとか、検討してほしい。
- ・ 退職後5年たつが、こういう開放授業があると知ったのは、最近だった。
- ・ 市民開放授業の案内を沼津、三島で見たことがない。沼津、三島の図書館は、入り口に出ているとかなり興味を示す。

- ・ 静岡県立大学へ電話したら、いろいろまわされた。静岡大学では、今回、「すぐに資料を送ります。」と対応がよかった。
- ・ 地震に対して静岡大学ももっと考えていくべき。
- ・ 授業を受けている学生が輝いていない。授業の中身を深めていくことも大事だが、その授業を受けて今後どうしていきたいのか、自分の生活にどう生かしていくのかが大事。
- ・ 最近の大学の授業の形態が分からない。昔は一方的であったが、今はQ&Aが盛ん。少し心配である。
- ・ 授業に行っても、前列は市民で学生は後ろの席に座るので、教員にも緊張感が出る。
- ・ 心理学、倫理学の授業は、現役学生を対象に教員は話をするので、経験をつんだ私達と少し違う。グループ討論で自分の子供達ぐらいの方々々と討論して、すごく楽しかった。
- ・ 試聴期間だけでも、掲示板の所に案内ができる人を置いていただけると助かる。自分が行く教室が分からない。キャンパスが広くてうろろうろしてしまう。案内するのは、学生、院生、OBでもいい。
- ・ 生協の売店を探すのも大変。ぜひ1週間でいいので、人を置いてほしい。
- ・ 大学の廊下が暗い。特に教育学部。

## 生涯学習教育研究センター運営委員会

当センターには、「生涯学習教育研究センター運営委員会」が組織されています。当センターの運営や組織について審議するとともに、全学公開講座の企画・立案・実施に関しても審議します。静岡大学の教員により組織され、定期的に審議をおこなっています。

### 運営委員名簿（2009年度）

阿部 耕也	センター長・センター専任教員・教授
菅野 文彦	副センター長・教育学部教授
金子 淳	センター専任教員・准教授
小二田誠二	人文学部教授
小西 潤子	教育学部准教授
横山 昌平	情報学部助教
千葉 慶子	理学部教授
菊池 光嗣	工学部准教授
竹之内裕文	農学部准教授

下村 勝 電子工学研究所准教授  
佐藤 龍子 大学教育センター准教授

生涯学習教育研究センターでは、学内の公開講座情報、大学開放事業などを掲載し、広報します。各種情報を当センターまでお寄せください。  
URL <http://www.shizuoka.ac.jp/~cerll/>

### 地域と大学 第19号

静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

発行日—— 2009年8月10日

発行—— 静岡大学生涯学習教育研究センター

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

(理学部B棟1階)

TEL&FAX: 054-238-4817 (資料室・受付)

E-mail : [LLC@ipc.shizuoka.ac.jp](mailto:LLC@ipc.shizuoka.ac.jp)

(事務局) 学術情報部研究協力・情報チーム TEL:054-238-4317